

「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案

2年	教科	音楽	指導者	日田 奏
単元名・題材名	「春」－第一楽章 情景を表現するための工夫を探ろう		時	2 / 全 3 時間
本時のねらい	<p>A 鑑賞曲「春」のそれぞれの場面の曲想を</p> <p>B 曲に付されたソネット(詩)を手掛かりに比較しながら鑑賞することにより</p> <p>C 音楽の醸し出す雰囲気と音楽の特徴について言葉で説明できるようにする。</p>			
本時の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	【評価の方法】 ワークシート
	【評価規準】 音楽を形づくっている要素と曲想との結びつきを感じ取って聴いたことを説明している。			
展開	めあて	ソネットを手掛かりに、曲想と音楽を形づくっている要素の関係を考えよう。		
	課題	情景を表現するために、作曲者はどんな工夫をしているだろうか。		
	課題 (めあて) 提示後の 問題解決の 流れ	<p>【課題 (めあて) 提示後の問題解決の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> これが説明を受けた「春」のテーマだね。春らしい感じで何回もでてくるね。 小鳥が鳴くところは、本当に鳴いているみたい。どうしてかな。 小川はゆらゆら流れている感じが感じられるね。 嵐は激しい感じで暗い感じがする。なぜだろう。 ・ 稲妻の感じがよくあらわされているね。 (グループ交流) テーマや強い部分は合奏になっているね。 ・ 小鳥や稲妻は一人(独奏)で演奏しているね。 嵐の部分に短調が使われているね。・そうだね。もう一度その部分をタブレットで聴き直してみよう。 (全体交流) 嵐と雷鳴を短調にし、合奏と独奏を組み合わせることで、みごとに表現しているね。 小川がゆらゆら流れるように感じるのは、なめらかな旋律からだな。 小鳥の部分は短い動機を繰り返すことで鳴き声らしくなっているな。 		
	まとめ	動機や旋律、調や演奏形態などその組み合わせを工夫し、情景を表現している。		
	振り返り	(学習してわかったこと、できたことを文章で書かせる。) ・ 夏や秋も聴いてみたいな。 ・ 情景を表現するのにいろいろな工夫が行われていることがわかった。		
「C:努力を要する」 状況の児童生徒への 手立て	【予想されるつまずき】	【必要な支援・手立て】(場面・方法 等)		
	音楽と情景が結びつきにくい	タブレット等で場面の絵をみながら繰り返し聴くよう促す。		
	イメージを言葉にするのが苦手	ことばヒントカード(ゆらゆら、なめらか、はげしい、暗い・・・)を用意する。		
	【個】指示を一回で聞き取ることが難しい	個別に、指示内容をホワイトボードに書いて提示し、キーワードを囲む。		